

〔論 文〕

韓国・地方教育庁における「平和・統一教育」への試み —京畿道教育庁を事例に—

Peace and Unification Education Promoted by the Provincial Offices of Education
in South Korea: A Case Study of Gyeonggi Province

朴 貞 蘭

Park Jeongran

1. はじめに

韓国の統一教育政策は、戦後の朝鮮半島¹状況に敏感に反応し、時期ごとに統一政策の方向性が変わってきた。たとえば南北分断以後は、「反共教育」、「安保教育」、「勝共統一教育」、「統一安保教育」、「統一教育」、「平和・統一教育」などに名称と目的を変更しながら、教育の基本方向も大きく変化してきたと言える²。しかし、最近の統一教育は、冷戦時代のイデオロギーを強調していた教育から脱イデオロギー教育に転換し、安保志向から平和と和解・共存志向のパラダイムに変化している。とりわけ、1990年代以降にその方向性が画期的に変化してきたと言えるが、中でも学校の統一教育において、1992年に「統一教育」という名称で使用されるようになったことは、戦後韓国における統一教育の変化を象徴的にあらわしていると考えられる。1990年以前の統一教育は、主に学校を通して行われていたが、共産主義や北朝鮮に対する批判（反共教育）と韓国社会の安保意識とその姿勢を強調する内容（安保教育）がメインであった³。

2017年5月、第19代・文在寅（ムン・ジェイン）大統領が誕生し、政府が推進する統一教育の名称は、「統一教育」から「平和・統一教育」に変わった。2018年後半には、統一部と教育部が、それぞれ『平和・統一教育：方向と観点』と「平和・統一教育の活性化計画」⁴を発表した。これをきっかけに平和と民主市民養成に焦点を合わせた統一教育を実施するよう各関係機関に要請したのである。安保教育中心の統一教育から、平和教育中

¹ 本稿では、朝鮮半島を「韓半島」、韓国を「南韓」、北朝鮮を「北韓」、小学校を「初等学校」、韓国と北朝鮮を「南北韓」と表記する場合がある。韓国の教育課程、教科書などにおいて使用している用語表現をあえてそのまま表記することを断っておく。なお、本稿で参考文献として引用している韓国語による書籍や論文、報道資料、新聞記事などの文献は、すべて筆者が翻訳した。

² パク・ヒョンビン「道徳科教育課程における統一教育と民主市民教育、そして平和教育の関係設定及び発展方案」『道徳倫理科教育』第67号、韓国道徳倫理科教育学会、2020年、100頁。

³ ソ・ソンギョ他『統一教育と統一法制を理解する十二のまなざし』図書出版ドンバン文化社、2020年、369頁。

⁴ 統一部の『平和・統一教育：方向と観点』と教育部の「学校における平和・統一教育の活性化計画」については、拙論「韓国「道徳科」教科書における「統一教育」の特徴」『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』第56巻、2019年をご参照いただきたい。

心の統一教育への転換が、政府機関を中心として各関係機関においても推進されている⁵。

また、拙論⁶で紹介したように、教育部の「平和・統一教育の活性化計画」（2018年11月）では、「教育課程における平和・統一教育の強化」（教育課程・教科書の補完、教授・学習コンテンツ開発）、教員・学生における「平和統一への共感拡散」の他、「市・道教育庁との協業」（管轄学校への平和統一教育支援）など、市・道教育庁など地域社会における「平和・統一教育」の重要性を強調している。そこで本稿では、韓国の京畿道（キョンギド）教育庁の事例を取り上げ、地方教育庁が運営・実施している「平和・統一教育」について検討していきたい。

2. 京畿道教育庁における「平和・統一教育」の事例

「統一教育支援法」第2条では、統一教育の目的を「自由民主主義に対する信念と民族共同体意識及び健全な安保観」に基づき、平和的統一に関する「共通の認識と態度を形成するため」と記している。このような目的から、韓国の統一教育は、実に多様に発展してきた。学校における統一教育は、毎年発行される『統一教育指針書』に従って実施しているが、「正しい統一意識・統一問題が客観的に判断できる能力を身につけながら、実質的に統一が準備できる実践意志と力量を持てる」ところに焦点が合わせられている⁷。

ところが、各地方自治体における統一教育は、「統一教育支援法」を地方自治体の政策環境に合わせて調整し、統一教育の活性化条例を制定した上で、これに基づいた統一教育の基本計画を試行する形で、様々な事業を推進してきた⁸。

「統一教育支援法」は、統一教育の対象別の類型に対して、学校統一教育と公務員などに対する統一教育を規定し、民間団体を通して社会統一教育もできるように規定している。たとえば京畿道は、この「統一教育支援法」に従い、社会統一教育、公務員統一教育、学校統一教育とともに、「京畿道平和統一教育の活性化条例」に基づき、移住背景を持つ道民対象の統一教育も推進している⁹。とりわけ、学校統一教育の場合は、京畿道教育庁の条例を中心に、京畿道教育庁と京畿道各地域の教育支援庁とが連携して、「道内の2,384学校（2019年5月基準、初等学校1,275校、中学校634校、高等学校475校）対象に実施」¹⁰して

⁵ 「こうした変化に対して、現場の教師らはポジティブに認識する場合もあるが、統一教育の用語変更の意味を理解することが「大変」と話すこともある」。キム・ピョンヨン、ジョ・ジョンア「学校統一教育の教育課程の運営実態に関するFGI研究」『道徳倫理科教育』第67号、韓国道徳倫理科教育学会、2020年、49頁。

⁶ 前掲拙論、朴、2019年、155頁。

⁷ オム・ヒョンスク「南北韓の教育の比較と統一教育の方向」ジン・ヒグアン他『12のデータで考える統一と平和、そして北朝鮮』（株）パクヨン社、2018年初版、2020年第3版発行、251頁。

⁸ 前掲書、ソ・ソンギョ他、2020年、381頁。

⁹ 「京畿道はこれまでに、京畿道における平和協力局の平和基盤助成と統一教育支援チームが中心となり、京畿道の31の市・郡では、京畿道所属機関である京畿道人材開発院、統一部統一教育院、京畿道教育庁、統一部統一教育院が指定した京畿南部・北部統一教育センター、そして道内の平和統一教育の民間団体などと体系的に協業し、平和統一教育を実施している。」前掲書、ソ・ソンギョ他、2020年、386頁。

¹⁰ 「報道資料：平和統一教育の市民の他、市民教育シリーズの教科書で教育」京畿道教育庁HP、2019年3月11日付。閲覧日：2020年11月24日。

http://www.goe.go.kr/home/bbs/bbsDetail.do?menuId=100000000000059&bbsMasterId=BBSMSTR_00000000163&menuInit=2,2,0,0,0&bbsId=976939

いる。このように京畿道教育庁が、市・道レベルにおける「平和・統一教育」の必要性を認識し、積極的に管轄学校において「平和・統一教育」が実行できている背景には、2011年9月に宣布した「京畿平和教育憲章」¹¹の存在がある。「平和教育の方向が朝鮮半島と周辺国との国際協力に繋がっていること」を力説した「京畿平和教育憲章」を通して、「教育課程と連携した平和教育プログラムを学校現場に案内、普及」が実行できるようにしてきたが、市・道教育庁としては初となる平和教育に基づいた統一教育の専門教科書を発行したのは、2017年3月のことであった。それでは、次節で京畿道教育庁が発行した『平和時代を開く統一市民』教科書を検討していく。

2-1. 京畿道教育庁の『初等学校 平和時代を開く統一市民 5～6学年』¹²の特徴

ここでは、京畿道教育庁が開発した「統一市民」教科書シリーズの中でも、『初等学校 平和時代を開く統一市民 5～6学年』（以下、『初等学校 統一市民』）を取り上げ、その構成や特徴について分析していきたい。

内容分析の前に、執筆から審議、検討までの発行情報について触れておく。教育部の認定図書『初等学校 統一市民』は、2017年1月19日付で認定され、「すべての学校で使用可能」な教科用図書¹³として、2017年度から使用されるようになった。2017年3月1日付で初版が、2020年3月1日には第4版が発行されるなど、版を重ねるたびに使用する地域の市・道教育庁が増え、2020年度の時点では、京畿道教育庁の他、仁川広域市教育庁、忠清南道教育庁、江原道教育庁管轄の学校が使用している¹⁴。著作権は京畿道教育庁の所有であるが、【表1】のように、京畿道の他、ソウル、仁川、江原、アンヤン地域の所属学校機関の関係者や教員らが、執筆から研究、審議、修正・補完、修正・検討の委員として参加している¹⁵。

¹¹ 「2011年9月15日、当時の京畿道教育庁のキム・サンゴン教育監は、初等学校の校長が850名ほど参加した場で、京畿革新教育の完成のために「京畿平和教育憲章」を宣布した。京畿平和教育憲章は、生命尊重意識と平和能力を伸ばしながら、学校と家庭生活などの日常生活の中で平和感受性を内面化することで、共に生きる民主市民を育成し、教育の究極的な志向点であり人類普遍の理想である平和の精神と価値を教育現場で実現させるために制定された。（中略）学校の管理者及び教師の平和教育マインドを高めるための研修及び教育を行う他、学生自らが自身及び他人との平和的な関係を形成するなど、平和に対する信念と実践が具体化できる積極的な平和能力を伸ばせるように、教育課程と連携した平和教育プログラムを学校現場に案内、普及する」。京畿道教育庁「報道資料：京畿道教育庁「京畿平和憲章」の宣布」「報道資料」京畿道教育庁HP、2011年9月15日付。閲覧日：2020年11月24日。
http://www.goe.go.kr/home/bbs/bbsDetail.do?menuId=100000000000059&bbsMasterId=BBSMSTR_00000000163&menuNit=2,2,0,0,0&bbsId=60820

¹² カン・ウヨン他、京畿道教育庁『初等学校 平和時代を開く統一市民 5～6学年』（株）チャンピ、2017年3月初版発行、2020年3月第4版発行。

¹³ 「その他、資料室」チャンピ教育HP。閲覧日：2020年11月24日。
<http://changbiedu.com/15-%EA%B8%B0%ED%83%80-%EC%9E%90%EB%A3%8C%EC%8B%A4/?pageid=2&uid=2159&mod=document>

¹⁴ 特に、2019年度下半期基準、これら市・道教育庁が管轄する初・中・高校生合計が、全国の51%以上になるという点を考慮すれば、認定教科書といっても相当数の学生が、この教科書を接する可能性があると言える。イ・スンヨン、ジョン・ヨンソン「『平和時代を開く統一市民教科書』の分析と市民教育における意味」『社会科教育』第59巻、韓国社会科教育研究会、2020年、104頁。

¹⁵ 参加委員の所属と氏名の詳細は、教科書の奥付をご参照いただきたい。

【表1】『初等学校 統一市民』教科書の執筆・研究・審議などの委員構成

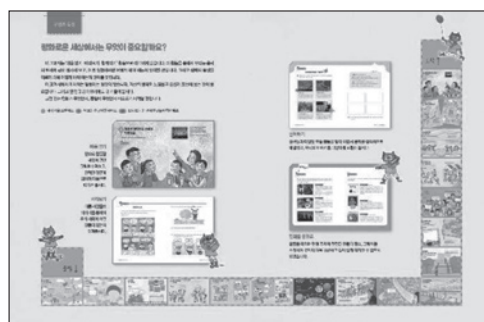
各分野	委員構成
執筆委員	京畿・ソウル・仁川・江原地域の初等学校教員の12名
研究委員	大学教員7名・統一部統一研究員1名・民族和解協力凡国民協議会1名、韓国女性平和研究員1名、高校教員1名の11名
審議議員	京畿道教育庁1名、初等学校教員5名、中学校教員1名、大学教員1名、アンヤングァクション教育支援庁1名の9名
修正・補完委員	京畿地域の初等学校教員3名
修正・検討委員	京畿地域の高等学校教員2名

【出典】「奥付」カン・ウヨン他、京畿道教育庁『初等学校 平和時代を開く統一市民5～6学年』（株）チャンビ、2017年3月初版発行、2020年3月第4版発行。

【写真1】裏表紙・背表紙・表紙



【写真2】「構成と特徴」



○構成

『初等学校 統一市民』は、「心を開く―見渡す―共にやってみる」という3つの活動や活動終了後に学習する「平和を夢見る」のコーナーで構成されている。具体的には、以下の活動・学習目標が掲げられている（【写真2】「構成と特徴」）¹⁶。

- ・「心を開く」：活動する内容に関する絵をみて、簡単な質問に答えながら、話しに心を通して近づいてみる。
- ・「見渡す」：他の人々の話を通して、わが社会にどのようなことが起きているか調べてみる。
- ・「共にやってみる」：友だちと様々なグループ活動をしながら、問題を創意的に解決し、自分の話を多様に表現してみる。
- ・「平和を夢見る」：単元主題と関連する人物や場所、絵本などの紹介をみて、主題についてより親しみを持って理解できるようにする。

上記の活動を通して、「許すことと和解に関して」考え、「これを実践しようとしたら、

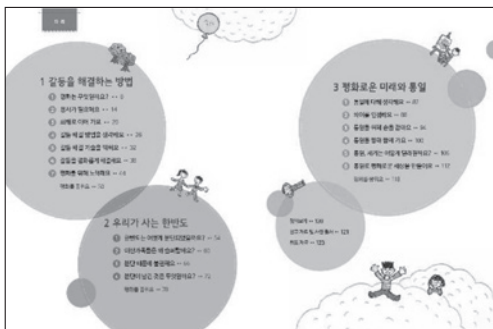
¹⁶ 2～3頁。

どのようにすべきか」、また「平和と統一を成し遂げるために、どのようにすべきか」を調べさせている。全体的な特徴としては、提示された各活動には正解が用意されておらず、生徒が考え感じたことを自由に表現させることを重視していることだ。さらに、友だちの話に耳を傾け、共に様々な活動をしなが、問題を創意的に解決することを目指していく中で、最終的には「真なる平和や統一」の意味が何なのかを考えることが、本教科書の学習目標である。

○内容

大単元は大きく3つに分けられており、中単元は4～7つの話で構成されている。【表2】は、大単元、中単元の主題と単元別の学習活動をまとめたものである。

【写真3】「目次」



【写真4】大単元「葛藤を解決する方法」



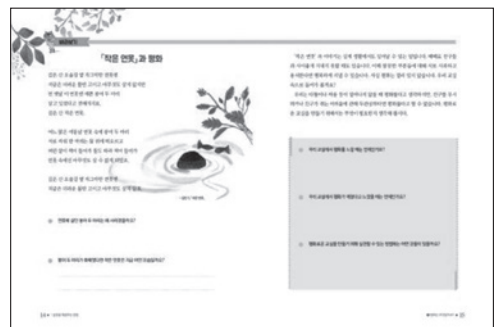
【写真3】（4～5頁）、【写真4】（6～7頁）は、教科書全体の目次と大単元Iの目次である。大単元Iの目次である【写真4】は、様々な文化を持つ人々が手を合わせていることが印象的だ。

次は、大単元I「葛藤を解決する方法」の中単元1「平和は何でしょうか」の内容を写真と共に分析しておく。

【写真5】中単元「1 平和とは何でしょうか。」



【写真6】「『小さな池』と平和」



【表2】『初等学校 統一市民』の単元・学習活動

大単元	中単元	学習活動
I 葛藤を解決 する方法	1 平和は何でしょうか。 2 許しが必要です。 3 和解で繋げていきましょう。 4 葛藤の解決方法を考えます。 5 葛藤の解決方法を学びましょう。 6 葛藤を平和的に解決しましょう。 7 平和のために努力しましょう	1 平和とは何かについて調べる。 2 他人を許した経験を思い出し、許すことの意味を考える。 3 和解の過程を理解し、和解する心を表現する。 4 周囲で起こる色々なケンカを見渡し、解決方法を探る。 5 平和的に問題を解決する方法を学ぶ。 6 葛藤解決方法を適用し、生活の中の問題を平和的に解決する。 7 平和を守ろうとする心を持つ。
II 私たちが住 んでいる朝 鮮半島	1 朝鮮半島はどのようにして分断になったでしょう。 2 離散家族はなぜ悲しむのでしょうか。 3 分断のために不便です。 4 分断が残したことは何でしょうか。	1 分断の過程を調べ、分断過程で私たちが学ぶべき教訓を考える。 2 南北韓の分断のせいで、私と家族、隣人が味わう悲しみを理解する。 3 南北韓の分断により、わが社会が経験する不便なところについて調べる。 4 分断以後、人々が北韓に対してどんな想いを持っているか調べる。
III 平和的な未 来と統一	1 統一について考えましょう。 2 差異を認めましょう。 3 統一のために手をつなぎましょう。 4 統一に向かってともの行きましょう。 5 統一、世界はどのように変わのでしょうか？ 6 統一で平和的な世の中を作りましょう。	1 統一について関心を持つ。 2 南北韓が違いを認め、互いを尊重する心を待つ。 3 南北韓の協力事例を通して、私たちができる協力方法を調べる。 4 南北韓が政治・経済的に協力した事例を通して、共にする未来を想像してみる。 5 韓半島統一が世界平和と国際社会に及ぼす影響を調べる。 6 統一したわが国で私ができることを考える。

【出典】カン・ウヨン他、京畿道教育庁『初等学校 平和時代を開く統一市民5～6学年』（株）チャンピ、2017年3月初版発行、2020年3月第4版発行。

【写真5】中単元「1 平和とは何でしょうか。」8～9頁。

○特徴：平和とは何かを調べてみる単元。ここでは、学習の導入段階である「心を開く」活動が用意されている。友だちやグループとの活動の前に、大・中単元のテーマである「平和」について、自分が思っている「平和」の定義、日常的に感じられる「平和」について考えてみるのが学習目標である。

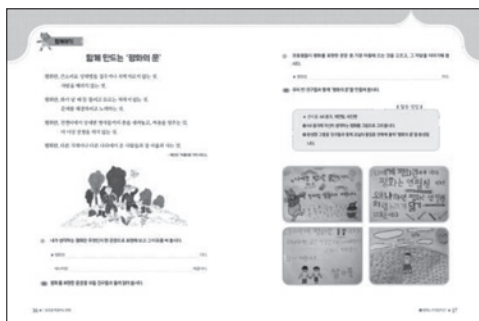
【写真6】「小さな池」と平和」10～11頁。

○特徴：より具体的な物語を与え、「平和」について考えさせる。「小さな池」（教室）に住んでいた金魚2匹（私・友だち）が、喧嘩（葛藤、対立）をした末、その池には誰も住むことができなくなったとの話。「小さな池」で起きたことが、実際の生活（教室）においても起こりうることと説明し、友だちと喧嘩をした際に、互いに謝り許すことで、みんなが平和に幸せに暮らすことができると理解する。平和な教室を作るためには、何か必要なのか考えてみる。ここでは、学習の中間段階である「見渡す」活動を用意して与えられた質問に答える活動も行う。

○質問事項

- ・わが教室で平和を感じられる時はいつなのか。
- ・わが教室で平和が壊されたと感じた時はいつなのか。
- ・平和な教室を作るために実践できる方法には何かがあるか。

【写真7】「共に作る「平和の扉」」



【写真7】「共に作る「平和の扉」」12～13頁。

○特徴：チェ・インソン『美しい価値辞典2』からの詩「共に作る「平和の扉」」を読み、「平和とは何か」、一つの文章で表現してみる。ここでは、学習の最終段階である「共にやってみる」活動を用意。平和を表現した文章をグループの友だちと回しながら読んでみて、その中でもっとも良いと思う文章を紹介し、その理由について話してみる。クラス全員で、「平和の扉」

を作成する活動。

○活動方法：紙に自分が考える平和を絵で描いてみる。完成した絵を友だちと共に教室のドアに貼り、「平和の扉」を完成させる。

これらの活動を通して、「平和」というものが遠い存在ではなく、生徒自身の身の回り、日常的に実感できる距離にあるものとして認識させる。

○14の中単元における「創意的体験活動」の例をまとめると、以下の通りである。

- ・「平和の扉」を作る。
- ・許す心というテーマでセリフを作り、「役割劇」を行う。
- ・和解というテーマで「詩絵」を作る。
- ・互いに尊重しながら、葛藤を解決する態度で、友達に「お願いして絵を描いて」もらう。
- ・「平和な対話を夢見るクラスの約束」を共に作る。
- ・クラスの問題を「役割劇」で表現し、解決する。
- ・「平和維持方法」のポジティブ・ネガティブ効果を考慮しながら、マップを作る。
- ・南北分断の過程を調べる。
- ・「離散家族新聞」を作る。

- ・南北分断で不便なところをマインドマップで描いて、発表する。
- ・北韓に対する思いを「ワールドカフェ」活動で意見を交わす。
- ・「統一したわが国はがきブック」を作る。
- ・南北の差異を尊重する内容の広告（UCC）を作る。
- ・「南北子ども・平和遊び広場」活動をする。
- ・統一のために南北協力することを想像して4カット漫画を作る。
- ・「世界平和に寄与する「統一韓半島」子ども宣言文」（条項）を作成する。
- ・「統一韓半島」でやってみたいことを考える（例：韓半島旅行商品の開発）。

○全体的な特徴

教育部が指定している一般的な統一教育は、道徳教科をはじめとする正規の教育課程と連携して行われているが、主に、道徳、社会科を中心としたすべての教科において行われる教科教育と創意的体験活動時間を通して行われる。道徳教科は、「個人生活」、「家庭・隣人・学校生活」、「社会生活」、「国家・民族生活」の4つの領域で構成されており、この中で、北朝鮮・統一関連内容は、「国家・民族生活」領域のみ含まれている。その他、教育課程の中、自立活動、サークル活動、ボランティア活動、進路活動などで時間が決められており、各4つの活動で与えられる時間は、学校で自律的に決めて教育するようになっている。教科教育上、統一関連の内容を取り上げることができなかつたり、統一教育の指導が足りなかつたりしたところは、「創意的体験活動」時間を利用する¹⁷。

これに比べ、京畿道教育庁の教科書は、1つ目の内容構成に関しては、決まった領域が存在しておらず、単元（主題）別に構成されている。既述したように、教育部発行の道徳科の北朝鮮・統一関連の単元は、「国家・民族生活」の領域のみに含まれており、統一問題を自分や友だちの身の回りなどの個人の問題として理解し難い内容構成である。その反面、京畿道教育庁の教科書では、統一を考えるためには、まず「日常」の生活の中で、平和、葛藤、和解について考えさせる内容から始まり、韓国と北朝鮮の対立や問題解決などを理解した後に、朝鮮半島の平和・統一問題に発展させる内容構成となっていることが大きな特徴であると言える。2つ目の「創意的体験活動」に関しては、中単元の活動例は、教育部発行の道徳科の活動項目と類似な形態が多かったが、実際にこの「創意的体験活動」が現場でどれほど行われたかの問題は、別途に検討する必要がある。

○教科書における単語の使用頻度

次は、教科書にある単語の使用頻度について調査した。比較のため、統一教育の教材が掲載されている初等学校の『道徳科4』、『道徳科6』及び『社会科6-2』教科書も分析した。高頻度単語の1位から10位までを分析した結果、【表3】の通りである。

初等学校『道徳4』、『道徳6』では、「統一」、「南北」、「北韓」が上位3位に入っているが、同じく初等学校教科書でも『社会6-2』には、統一教育を取り上げている単元に領

¹⁷ ジン・ヒグァン他『12のデータで考える 統一と平和、そして北朝鮮』（株）パクヨン社、2018年初版、2020年第3版発行、251頁。

土（地理）に関する内容があり、1位は「独島」となっていることは注目すべきである。1位の「独島」に続き、道徳科と同様、「統一」、「南北」が上位に入った。『初等学校統一市民』の場合も、「南北」、「統一」が3位までに入ったが、「平和」が1位となっていることは、京畿道教育庁教科書が「統一」を考える手段として「平和」テーマを最も重視していることを意味する。

なお、『統一市民』の場合、初等学校用だけでなく、中学校・高等学校用の『統一市民』教科書と比較した場合、初・中・高等学校用の教科書のすべてに、「平和」が相対的に高い頻度であらわれており、また、初・中学校用では「南北」が、高等学校用では「分断」、「葛藤」のように、高等学校用の教科書では、南北関係に対する単語が相対的に高い頻度であらわれていることがわかる¹⁸。

初等学校用教科書には、「私たち」、「友達」、「話し」、「グループ」のように生活の中で使われている単語が多く提示されている反面、中学校と高等学校用教科書には、初等学校

【表3】初等学校教科書（統一教育関連単元）における高頻度単語1位～10位

順位	『初等学校3～4学年群道徳4』		『初等学校5～6学年群道徳6』		『初等学校5～6学年群社会社会6-2』		『初等学校 平和時代を開く統一市民5～6学年』	
	用語	回数	用語	回数	用語	回数	用語	回数
1	統一	34	統一	98	独島	88	平和	91
2	南北	21	南北	18	統一	40	南北	73
3	北韓	19	北韓	17	南北	38	統一	61
4	友達	18	私たち	13	我が国 平和	18	北韓	53
5	分断	16	ドイツ	10		18	私たち	52
6	權	15	平和	9	統一韓国	16	友達	46
7	私たち	14	統一韓国	8	韓半島	12	グループ	44
8	努力	10	分断	7	北韓	10	方法	39
9	実践	10	南韓	5	未来	10	考え	38
10	韓半島	9	話し	5	領土	10	話し	36

【出典】ソウル教育大学道徳国定図書編纂会編・教育部『道徳4』（初等学校3～4学年群道徳）（株）ジハク社、2018年3月初版発行、86～101頁。ソウル教育大学道徳国定図書編纂会編・教育部『道徳6』（初等学校5～6学年群道徳）（株）ジハク社、2019年3月初版発行、96～113頁。釜山教育大学校国定図書編纂会編『初等学校5～6学年群社会 社会6-2』教育部、（株）ジハク社、2019年8月15日初版発行、88～113頁、160～161頁。『初等学校 平和時代を開く統一市民5～6学年』における高頻度単語の分析は、イ・スンヨン、ジョン・ヨンソン「〈表5〉学校別、高頻度で掲載されている単語10個」「平和時代を開く統一市民教科書」の分析と市民教育における意味『社会科教育』第59巻、2020年、113頁から引用者が編集したものである。

¹⁸ 中学校用教科書における順位は、「南北（176）→平和（152）→統一（141）→私たち（138）→人（119）→葛藤（94）→北韓（88）→戦争（87）→分断（68）→韓半島（64）」で、高等学校用教科書は、「平和（337）→北韓（170）→分断（147）→葛藤（144）→南北（143）→私たち（136）→統一（135）→韓半島（121）→社会（109）→戦争（82）」である。前掲論文、イ・スンヨン、ジョン・ヨンソン、2020年、113頁。

教科書でほぼ登場していなかった戦争と社会に関する言及があったことも興味深い。これは、国家レベルへ統一の当為性に関する論題が個人から社会へ移行されていることを裏付けていると考えられる¹⁹。

また、イ・スンヨン、ジョン・ヨンソン²⁰が指摘しているように、すべての教科書で、「平和」・「統一」を、南北の葛藤を平和的に解決する主体として紹介している。初等学校用の場合、葛藤解決の主体として、「友達」、「グループ」として構成された「私たち」（「ウリ」）が、中・高等学校用では、社会と繋がった「私たち」が強調されている点に注目すべきである。この時の「私たち」の定義が明確ではないため、韓国に住んでいる市民には属するが、韓国の民族には属さない背景を持つ学生は、「平和」・「統一」の論議において排除される恐れがある²¹。このようなリスクを減らし、平和・安保意識のバランスを取るために、教科書にある「私たち」が誰なのかも明確にすべきである。初等学校用教科書では、日常生活で出会う個人が主に含まれる反面、中・高等学校では、社会、国家を「私たち」とする傾向がある。ところが、2019年基準、多文化学生韓国教育開発院のデータによると、国内出生や親の一人以上が外国背景を持っている場合、外国人家族出身の場合は、すべて多文化学生と分類しており、多文化学生と分類される学生が、合計137,225名（韓国教育開発院、2019）で、全体の5,473,000名（教育部、2019）の2.51%に該当することがわかる。従って、これら平和・統一に関する学生活動において排除されないように、教科書における「私たち」表現は、慎重に使用すべきであると考えられる²²。

3. 京畿道教育庁における「平和統一教育の活性化計画」

3-1. 市民教育教科書3種セットの発行

既述したように、京畿道教育庁は2011年の「京畿平和教育憲章」宣言以降、平和的な民主市民教育のために、教科書を開発するほか、教員研修、南北教育交流協力事業など、様々な統一教育のガバナンスに力を入れてきた。その後、新たな試みとして、民主市民、統一市民に続く世界市民の教科書も開発し、これらの市民教育の教科書（3種10巻）は、11か所の市・道の学生らが学習することになり、市民教育を先導することになったといえる²³。ここでは、京畿道教育庁が発行した民主・統一・世界市民教科書について簡単に紹介しておきたい。主な内容は、以下の3点にまとめられる。

○主要内容

- ・京畿道教育庁の民主市民教科書使用のため、11の市・道教育庁への承認
- ・民主市民、統一市民、世界市民の市民教育3種教科書の活用、活性化

¹⁹ 同上論文、113頁。

²⁰ 同上論文、103頁。

²¹ 同上論文、103頁。

²² 同上論文、122頁。

²³ 「報道資料：平和統一教育の市民の他、市民教育シリーズの教科書で教育」京畿道教育庁HP、2019年3月11日付。閲覧日：2020年11月24日。

http://www.goe.go.kr/home/bbs/bbsDetail.do?menuId=100000000000059&bbsMasterId=BBSMSTR_00000000163&menuNit=2,2,0,0,0&bbsId=976939

- ・2018修正・補完を経て、現在のわが社会の争点とともに議論できる教材

2019年11月、京畿道教育庁は、ソウルを始めとする11の市・道の市民教育の教科書使用を承認したと明らかにした。これで、2017年まで京畿道教育庁で開発した市民教育教科書を2019年には、11の市・道の学生がともに使用することになった。

京畿道教育庁の市民教育教科書は、合計10巻で、『共に生きる民主市民』4巻、『平和時代を開く統一市民』3巻、『地球村と共に生きる世界市民』3巻の構成である。3種の教科書は、初、中、高等学校用として開発され、『共に生きる民主市民』の初等教科書は、3～4学年用と5～6学年用で細分化されている。

これら市民教育の教科書は、京畿道教育庁の認定図書として他の市・道教育庁において教科書として使用されるようになるためには、京畿道教育庁と業務協約を経て使用承認を受けなければならなかった。2015年に、ソウル特別市教育庁と業務協約を結び使用承認を出してから、市民教育教科書の使用地域は、光州、江原、忠南、全北、世宗、忠北、全南、慶南、仁川地域まで広がり、2019年には、蔚山広域市まで拡大された。『共に生きる民主市民』教科書は、11市・道がすべて使用し、『平和時代を開く統一市民』は、ソウル、江原、仁川、忠南の4の教育庁で、そして『地球村と共にする世界市民』は、ソウル、江原、仁川、光州、忠南の5の教育庁で使用されている。

一方、学生合わせ型教科の選択圏の拡大に伴い、「市民教育」教科書を教育課程の中の選択教科として編成する中・高等学校が大きく増加し、2018年4月基準、市民教科書を活用している学校は、京畿道の全体学校の68%まで上った。

京畿道教育庁は、討論と体験活動で進行できる民主市民教科書を社会科教育課程の補助教材として活用したり、各教科の融合教科資料、「創意的体験活動」または選択教科時間の教材として活用したりする方法を各学校に提示している。

京畿道教育庁・民主市民教育課のキム・グァンオク課長は、「民主市民教科書は、わが時代の社会的争点を議論しながら、市民性を涵養できる教材として、市民教育の重要性に対する共感帯が作られるようになり、全国へ拡散している」としながら、「教科書を普及するのにとどまらず、安定的かつ体系的な民主市民教育が活性化できるように、京畿道教育庁の実践過程も共に共有していく」²⁴とした。また、これら京畿道教育庁の民主・平和・世界市民教科書の開発事例は、開発当時から教育界において大きな注目を浴びてきている²⁵。

²⁴ 「報道資料：平和統一教育の市民の他、市民教育シリーズの教科書で教育」京畿道教育庁HP、2019年3月11日付。閲覧日：2020年11月24日。http://www.goe.go.kr/home/bbs/bbsDetail.do?menuId=100000000000059&bbsMasterId=BBSMSTR_000000000163&menuInit=2,2,0,0,0&bbsId=976939

²⁵ パク・ソンヒ「京畿道教育庁の『共に生きる民主市民』と市民教育」『韓国教員大学校新聞』2015年4月28日付、2017年11月26日付修正。閲覧日：2020年11月24日。http://m.news.knue.ac.kr/news/articleView.html?idxno=435

キム・ギョント「京畿道教育庁、「市民教科書」3種セットを作る。」『連合ニュース』2016年1月14日付。閲覧日：2020年11月24日。https://www.yna.co.kr/view/AKR20160113190800061?input=1179m

ミン・ギョンホ「京畿道教育庁、民主・平和・世界市民教育の事例集の発行」『経済ニュース通信NSP通信』2017年12月27日付。閲覧日：2020年11月24日。http://m.nspna.com/news/?mode=view&newsid=258657#article_start

イ・ジウン「京畿道教育庁、「地球村と共にする世界市民」教科書の英文版を発行」『ニュースピーム』2019年7月14日付。閲覧日：2020年11月24日。http://stock.thinkpool.com/news/newsFlash/read/newsFlash.do?sn=13417935

3-2. 京畿道教育庁の「平和統一教育の活性化計画」（2020年度）

2020年度に入り京畿道教育庁は、「平和・統一教育」に関するスローガンとして、「統一は過程を通して作っていく平和」とし、「平和統一教育の活性化計画」（担当：民主市民教育課平和教育、2020年1月）を発表した。ここでは、推進背景及び目的、推進概要（【表4】）の詳細を紹介しておく。

○推進背景

- ・「統一教育支援法」第8条（学校の統一教育の振興）
- ・「京畿道教育庁の統一教育活性化条例」第6条（統一教育の計画樹立など）
- ・「2020京畿教育基本計画」政策2．学校自治／市民教育／平和統一教育の拡散

○推進目的

- ・平和を認識し、生活の中で実践する平和市民育成
- ・和解、協力、相互尊重の精神を実践する力量中心の平和統一教育の定着
- ・学生が平和時代の主役になる学生参加中心の平和教育の活性化

「平和統一教育の活性化計画」では、上記の推進背景・目的の他に、推進方針と期待成果なども挙げられている。「平和・統一教育」教科書の場合は、関連教科（道徳、社会、歴史など）との連携活用や幼稚園用の教科書開発などが、地域別の「平和・統一教育」の活性化推進に関しては、地域別の特殊性を反映した自治体、市民社会団体との連携、体験プログラムの開発及びインフラ構築などが計画されている。

4. 現行の「平和・統一教育」の課題

既述したように2018年、学校における「平和・統一教育の活性化計画」を発表し、2017年まで使用していた「統一・安保教育」を「平和・統一教育」に変化させた。これは安保中心の統一教育を平和、共存、和解の観点に旋回すると同時に、変化している北朝鮮に対する理解を基盤とした未来世代の統一力量を育て、平和・統一への共感拡散を図るものであった。そして、教育現場における現在の分断体制を克服し、朝鮮半島の平和定着を具現するためでもある。このような平和的な観点の統一教育は、戦争、社会脅威、体制不安のような外在的暴力だけでなく、北朝鮮住民に対する敵対感、北朝鮮離脱住民に対する偏見と差別、社会葛藤のような内在的な暴力から脱却することを意味する。また、非暴力的な問題解決力を養うことで暴力的な方法に頼らず葛藤を解決できる平和力量が強化できるように、これらの「平和・統一教育」は、民主市民の資質を育てることと密接な関連があるとも言える²⁶。しかし、上記のような教育部から要請された「平和・統一教育」については、当然のことながら、課題点も多く指摘されている。ここでは、現行の「平和・統一教育」の課題点を3点に絞って紹介しておく。

²⁶ 前掲論文、パク・ヒョンビン、2020年、100頁。

【表4】京畿道教育庁における「平和統一教育の活性化」の推進概要

ビジョン	平和・共存の時代を準備する平和市民養成
目的	<ul style="list-style-type: none"> 平和を認識し、生活の中で実践する平和市民の養成 和解、協力、相互尊重の精神を実践する平和統一教育の定着 学生が平和時代の主役になる学生参加中心の平和教育の活性化
推進方向	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程連携の平和統一教育の内実化と教員力量強化支援 地域別平和統一教育の活性化基盤の助成・運営 南北教育交流協力基盤の定着



推進方向	推進課題の詳細
① 教育課程連携の平和統一教育の内実化	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程連携の平和統一教育の支援（教科活動、創意的体験活動） 「平和時代を開く統一市民」教科書の活動授業の活性化 成長段階別の『平和時代を開く統一市民』教科書の開発・普及 平和統一教育教師の授業専門性及び力量強化支援
② 地域別平和統一教育の活性化基盤の助成	<ul style="list-style-type: none"> 教育支援庁の特色のある平和統一教育プログラムの開発・運営 地域別平和統一体験のインフラ構築・単位学校の支援 地域別教員の平和統一教育の共感帯の拡散と授業専門性の力量強化支援
③ 南北教育交流協力基盤の定着	<ul style="list-style-type: none"> 「南北教育交流協力委員会」構成及び運営 南北教育交流協力基金助成及び運用計画、事業計画の審議 南北の学生文化、芸術、スポーツ交流などの段階的な推進



<p>単位学校</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育課程内の平和統一教育の活性化 「平和時代を開く統一市民」教科書の活動授業、体験活動の運営 教師の専門的な学習共同体の運営 学生の平和統一サークルの活性化 単位学校の自律的平和統一教育プログラムの運営 	<p>道教育庁</p> <ul style="list-style-type: none"> 平和統一教育活性化の政策樹立 統一教育活性化委員会の開催 南北教育交流協力委員会の開催 道単位の平和統一教育研究会の支援 統一部、教育部連携の平和統一教育のネットワーク構築 	<p>教育支援庁・地域社会</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域単位の平和統一教育委員会 統一教育授業事例の共有機会を提供 平和統一教育協議体の構成 平和統一教育の民一官ガバナンスの構築
---	--	--

【出典】「地方教育政策公示」「2020平和統一教育活性化計画」京畿道教育庁HP、2020年2月24日付。閲覧日：2020年11月24日。

http://www.goe.go.kr/home/bbs/bbsDetail.do?menuId=10000000000261&bbsMasterId=BBSMSTR_00000030028&menuInit=12,1,1,0,0&bbsId=989689

1つ目は、「平和・統一教育」概念の不明確さについて。

既述した『平和・統一教育の政策の方向と観点』（2018年）で、「平和・統一教育」の目標として設定した「平和・統一の実現意志・健全な安保意識の涵養、バランスのある北朝鮮観の確立、平和意識・民主市民意識の高揚」が、各々の究極的な目標が何を意味しているかが明確ではないという指摘だ。『平和・統一教育政策の方向と観点』が発行されたが、「教育現場では「平和・統一教育」の概念定義もない指針書の発行の意図と新しい教育指針と方向が理解できず」、したがって、「平和構築のための統一教育という歴史的一貫性のためにも、（中略）持続可能な統一教育の指針書としての再構成が必要」²⁷である。

2つ目は、「平和・統一教育」と民主市民教育との連携について。

統一教育は、民主市民教育とも重なるところがあり、「平和教育、民主市民教育と連携し、統一教育の方向性を設定することが、統一教育論議の主要な流れ」²⁸ではあるが、学校現場における統一教育は、「未だに民主市民教育、平和教育の様々な内容・要素の間で、何が、どのように繋がり、どのように取り扱うべきかに対して、お互い異なる基準が提示」されている。そのため、「道徳科統一教育で民主市民教育と平和教育の実行に関する理解が難しい」という反応も少なくない。たとえば、「初等学校の教育現場における統一教育、民主市民教育、平和教育は、道徳科、社会科の他、統一教材を含んだすべての教科学習の中で、明確な基準が提示されないまま互いの内容と主題が重なっており、より混乱」²⁹している。

3つ目は、統一教育の方向性について。

「平和・統一教育」に対する現場教師の反応として、統一教育の方向性に対する疑問と統一教育の授業時間数の不足に関する指摘である。キム・ビョンヨン、ジョ・ジョンアは、学校の統一教育を担当している担当教師を対象にした「焦点集団インタビュー」の中で「学校の統一教育関連の教育課程の運営実態を把握し、統一教育の内実化のための課題」³⁰を提示したが、ここで統一教育の担当教師らは、政権交代により統一教育の方向性が大きく変化することに対して疑問を持っており、当為性中心の統一教育について限界」を感じていると答えた。国家の教育政策としての統一教育が強調されることは異なり、実際に学校で行われる統一教育は、順調ではないケースも多いという。たとえば、統一教育院の実態調査において教師らは、年間学校の教育計画によって統一関連の授業を実施できなかったことに対して、「学年末の授業集中による授業時数の不足」（63.4%）、「試験未出題による関心の低下」（18.9%）などの順で答えた。インタビューに参加した教師らは、「教えたくても教科書でその内容を取り扱っていないし、該当授業ができる時数が保障されていないため、教えられない構造的な限界がある」と語る³¹。

²⁷ カン・スンウォン「朝鮮半島の平和市民性教育言説：分断時代の統一教育から平和時代の市民教育へ」『国際理解教育研究』第15巻、2020年、34頁。

²⁸ ジョ・ジョンア「統一教育の争点と課題」『統一政策研究』第16巻、統一研究院、2007年、295～296頁。前掲論文（パク・ヒョンビン）、2020年、100頁。

²⁹ 前掲論文、パク・ヒョンビン、2020年、101頁。

³⁰ 前掲論文、キム・ビョンヨン、ジョ・ジョンア、2020年、43頁。

³¹ 「統一教育支援法」では、統一教育週間を法制化し義務化している。教育部は、統一教育週間の運営とともに、教科及び「創意的体験活動」を通して統一教育を実施するよう推奨している。教育部の推奨時間は、教科授業4時間、「創意的体験活動」6時間である。同上論文、2020年、56頁。

また、京畿道の「平和・統一教育」教科書は、「地域の教科書として国家レベルの教科書とは異なる内容知識を学生に見せる必要がある」とした上で、「世界だけでなく地域における平和・統一具現のための学生活動を盛り込むことが望ましい」³²と指摘した。なお、京畿道教育庁の「平和・統一教育」教科書の改訂すべきことを以下のように提案している。

1. 学生は、共同体の一員が誰なのか探索する機会を持つべき。その機会を通して学生は統一が朝鮮半島の中の地域に居住する個人の生活と繋がっていることを認識し、北朝鮮の文化、その他様々な文化に対する理解を広める。特に、学生は平和具現のために自身がすべきことは何なのか探求することによって、共同体の市民であり、世界市民としての統一に寄与できる自分というアイデンティティを構成できる機会を得ることになる。
2. 統一教育に多文化的観点と世界市民的観点をすべて適用することも必要。たとえば、多文化教育については、北朝鮮離脱住民を提示し、学生が北朝鮮に対して多様性の観点から考えながら、同時に難民問題としてもその解決策を考えることで、世界平和に寄与できる方法が探求できる構成の教科書を作るべきである。

なお、市・道教育庁が開発する地域教科書は、地域のレベルで統一関連問題を解決できる方案に関する議論をもっと採択すべきである。国家レベルの教育課程に含まれた問題を地域教科書で取り上げることは、教育課程が重複される恐れがある。なので、京畿道地域の教科書であることを考慮し、統一と関連する京畿道知識を提示できるように設定する工夫も必要である。これに関しては、前章で紹介した京畿道教育庁の「2020平和統一教育の活性化計画」において「地域別の平和統一教育の活性化基盤助成」を課題点の解決策として紹介し、具体的には、「地域の特殊性を反映した自治体、市民社会団体の連携平和統一体験プログラムの開発及びのインフラ」を構築するという計画を明らかにしているため、今後の京畿道教育庁における「平和・統一教育」事業に注目していきたい。

5. おわりに

本稿では、2018年に発表された『平和・統一教育：方向と観点』（統一部）と「平和・統一教育の活性化計画」（教育部）に盛り込まれている「平和・統一」教育について、市・道教育庁で実施している事例として、京畿道教育庁の『初等学校 平和時代を開く統一市民』教科書を分析した。

本教科書は、2011年に発表された京畿道教育庁の「平和教育憲章」の精神に基づいた民主・統一・世界市民教育シリーズとして誕生したものである。『初等学校 統一市民』は、教育部発行の道徳科・社会科教科書（統一教育関連教材）に比べ、「日常」の生活の中で、平和、葛藤、和解を考える過程の延長線に、平和・統一の意味を考えさせるという大きい特徴があった。しかし、教科書にある「私たち」（ウリ）の定義が明確ではないため、韓国に住んでいる市民でありながら、韓国の民族には属さない多文化背景を持つ学生にとって

³² 前掲論文、2020年、122頁。

は、「平和」と「統一」の議論から排除される恐れがあるなど、課題点がみられた。

現行の「平和・統一教育」の課題としては、「平和・統一教育」の概念の不明確さからくる学校現場の混乱、統一教育の運営実態として授業実数の不足などが指摘されているが、平和構築による統一教育のために、持続可能な統一教育の目標を再構築する必要があると考えられる。なお、京畿道教育庁における「平和・統一教育」については、民主・統一・世界市民の市民教育3種教科書の発行や「2020平和統一教育の活性化計画」による地域特殊性を反映した「地域連携の平和統一プログラム開発・インフラ構築」からわかるように、京畿道教育庁におけるこれらの試みが、朝鮮半島における平和のための葛藤解決教育や東アジアの市民性教育に繋がることを期待していきたい。

〔付記〕

本研究は、科学研究費・基盤研究(C)「戦後韓国における「分断イデオロギー」教育の形成と展開—教科書・体験学習を中心に—」(課題番号:17K04725、2017~2020年度)の研究成果の一部である。